

令和2年度

園だより

文京区立根津幼稚園



10月

スポーツの秋＝学びの秋

園長 小岩井 聡

この園だよりが発行された翌日の10月1日が、今年の中秋の名月だそうです。もうすっかりと秋ですね。昔から秋といえば「読書の秋」「食欲の秋」「実りの秋」「芸術の秋」と様々に表現されていますが、今の根津幼稚園の子どもたちにとっては10月3日に迫った運動会の「スポーツの秋」が一番ではないでしょうか。

このコロナ禍で運動会が実施できるか、9月当初は不安もありました。しかし、運動会は子どもたちにとっては楽しい行事である以上に学びの多い大切な機会であります。そこで、例年のスタイルを大きく変えて、現状でも実施できる方法を考えました。保護者の皆様方には、親子競技の中止や参観の人数制限などにご協力いただき、また地域のご来賓の皆様方、未就園児の保護者の皆様には今回はご来場をお控えいただいたり、競技の中止にご理解をいただいたりしました。皆様のご理解・ご協力のおかげで、子どもたちは今、精いっぱい運動会に向けて取り組んでいます。お礼申し上げます。

先日、ほし組の運動会の練習を見ていた時のことです。みんなで走る順番を考えてリレーを行っていました。接戦でしたが、その時は緑チームが勝ちました。私が順位の発表をするのですが、毎回、真剣な目で私の方を見ている。運動会の取り組みを始めた当初は、順位発表をすると勝敗によって、悔しくて泣いて訴えたり、もうやらないと怒ったり、様々な姿がありました。でも、運動会を直前に控えたその日はそういった姿は見られませんでした。なぜでしょう。

「まだ時間がある。もう1回をやりよう」と気持ちを切り替え、今のリレーを省みて新たに走順を子どもたちで考えます。勝ったチームもそれに胡坐をかいているのではなく、相手が真剣に作戦を立ててくるところを知っていますからそれに対応できるように走順を考えます。第2回戦が始まりました。1位は再び緑チームがとりました。しかしその差は僅かでした。私が順位発表の時にそのことを伝えると、白チームは「よし、ちょっとの差なら大丈夫、次こそ!」といった表情で聞いているのです。その子どもたちの表情の中に、チームでリレーに勝つという目的を共有し、それに向かって考えを出し合い、競うことの楽しさを感じているのだと思います。子どもたちは、競うことの楽しさをしっかりと味わえているということが言えるでしょう。

リレーの取り組みで子どもたちが学んだこと。それは協同性であり、言葉によるコミュニケーションであり、葛藤体験であり、思考力であり、相手への思いやり、学級のみんで力を合わせて取り組む楽しさなど、たくさんあります。一つの場面からでもこれだけの学びの積み重ねが感じられます。これは、りす組、はな組も同じです。リズム表現やかっこにに取り組む中で、友達と一緒にする楽しさや応援してもらう嬉しさ、自分なりに頑張った満足感などその年齢なりの学びを重ねています。運動会はその日だけが大事なのではなく、その日までの過程が大事なのです。運動会当日の子どもたちの頑張りはもちろん、それまでに子どもたちが積み重ねてきた学びもぜひ受け止めてあげてください。そして今年は、大きな声援ではなく大きな拍手で子どもたちを包んであげていただきたいと思います。よろしくお祈りします。



年長組の力走の様子！当日が楽しみです。